

総合単元名	支え合う心	9月～11月	全7時間	
めざす子ども	相手の立場に立って考え、誰に対しても進んで親切が出来る子	中心項目	2-(2)	
ねらい	相手の立場に立って考え、誰に対しても進んで親切をしていこうとする態度を育てる。	関連項目	2-(3)	
単元設定の理由 児童はみんな、人の役に立ちたいという願いをもっている。しかし、相手を思うだけで行動に移すことが出来ない児童や、相手のことを考えての行為というよりも、単に親切にすればよいという対処的な動機による行動をする児童もいる。そこで、本当の思いやりとは何かを考え、相手の立場に立ち、誰に対しても進んで親切をしていこうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。				
時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間等	道徳の時間	常時活動 家庭との連携(◆)	子どもの意識の深まり
9月	①学校行事 9月(1時間) 「社会見学」 相手のことを考え、声を掛け合いながら活動することができる。	②<思いやり・親切> 2-(2)9月(1時間) 「すてきなおくりもの」 主題名:思いやりを受け継ぐ 新聞に投書したときのお兄さんの気持ちを考えることを通して、その人の立場に立って考える思いやりのよさや、それが広がるよさに気づき、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を養う。		① 気が付いたらお互いに声をかけあえる、温かい社会見学だったよ。 ② 誰にでも親切にできて素晴らしいな。しっかりと行動で示して、思いやりの心を広げていくって大切だな。 ③ 組体操の技を成功させるためには、自分だけでなく友達もやりやすいような姿勢をとる必要があるな。
10月	③体育科 10月(1時間) 「表現運動」 組体操の練習で、相手のことを考えながら、いろいろな技を成功させることができる。	④<友情> 2-(3)10月(1時間) 「心のレシーブ」 主題名:分かり合う友 「よし、次は絶対勝つぞ。」の声を聞いた陽子の気持ちを考えることを通して、男女が分かり合って協力するよさに気づき、互いに理解し合い、仲よく協力し助け合おうとする態度を育てる。	(◆縦割り班掃除) サブリーダーとして6年生のリーダーを助け、班掃除の運営に協力することができる。	◆ 縦割り掃除でサブリーダーとしてリーダーを助け、協力して活動しよう。 ④ 男女関係なく協力し合って、ベストを尽くしていきたいな。 ⑤ みんなの気持ちを一つにして、よりよい合唱や演奏に仕上げている。
	⑤音楽科 10月(1時間) 「重なり合う音の美しさを味わおう」 みんなで力を合わせて音楽を作り上げていく楽しさを味わうことができる。		(★帰りの会) 相手の立場に立った行動を見つけ、伝え合うことで、お互いを認め合うことができる。	★ 帰りの会では、思いやりのある行動をたくさん見つけて、発表しているかな。 ⑥ 自分の考えだけで行動すると、相手に嫌な思いをさせることもある。相手の気持ちを考えて、相手の立場に立って行動しよう。
11月	⑦学校行事 11月(1時間) 「音楽発表会」 相手の立場に立って声をかけ合いながら、本番に挑み、達成感を味わうことができる。	⑥<思いやり・親切> 2-(2)11月(1時間) 「父の言葉」(本時) 主題名:思いやりの心 父の言葉を聞いたときの「わたし」の気持ちを考えることを通して、本当の思いやりとは相手が何を望んでいるのかを親身になって考えることだと気づき、どうすることが相手のためになることかを相手の立場に立って考え行動しようとする態度を育てる。	(■業間遊び) みんなが楽しく遊べるような内容を考え、相手のことを考えながら仲間づくりをすることができる。	⑦ 今までよく練習してきた。みんな緊張していたけれど、お互いに温かい声をかけあえたから落ち着いて演奏が出来た。よかったな。 ■ 大休憩のレクリエーションでは、みんなが楽しめるように相手のことを考えながら接することができるようになったよ。
相手の立場に立って考え、誰に対しても進んで親切が出来る子				

「道徳の時間」学習指導案

指導者 前田 佳保里

- 1 日時 2014年(平成26年)11月7日(金) 第5校時
- 2 学年 野々浜小学校 第5学年1組 男子13名 女子13名 計26名
- 3 主題名 思いやりの心 中心項目 2-(2) 〈思いやり・親切〉
関連項目 2-(3) 〈信頼・友情、助け合い〉
- 4 ねらい 父の言葉を聞いたときの「わたし」の気持ちを考えることを通して、本当の思いやりとは相手が何を望んでいるのかを親身になって考えることだと気づき、どうすることが相手のためになるのかを相手の立場に立って考え行動しようとする態度を育てる。
- 5 資料名 父の言葉―黒柳徹子 (出典:「5年生の道徳」 文溪堂)

6 主題設定の理由

- 人が社会という集団生活の中で共に生きる上で、相手を思いやることは、人間関係を豊かにし、温かくするために欠かせないことである。「思いやり」とは、哀れみや同情、お節介などではなく、他人の困難や苦しみを自分のこととして受け止め、その悲しみや苦しみを理解し、相手のために何らかの支えになろうとする心情である。そして、その相手を思いやる心が行為になったものが「親切」となる。相手の気持ちを察したうえで、どのように対処することが本当に相手のためになるのかを考えて行動するところに、真の「思いやり」がある。

この時期の児童は、困っている人に対して進んで親切にすることができる。特に、年少者や年寄りに対して実行できる児童は多い。しかし、事情や相手のことを考えての行為というよりも、単に親切にすればよいという対処的な動機によることが少なくない。そこで、相手が何を望んでいるのか、相手の支えになるとはどういうことかを相手の立場に立って考えることで、相手の思いに寄り添った親切ができる子に育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、仲の良い友達にはやさしい声かけをしたり、進んで友達のためになることをしたりする姿がみられる。事前アンケートでもそれぞれ「自分は友達に親切にすることができている。」に100%、「友達は自分に親切にしてくれている。」にも100%の肯定的回答があった。このことから、自他の関係は相互に親切ができていると実感していることが分かる。

しかし、「自分は相手の立場に立って考え、行動することができている。」に対する肯定的評価は88%であった。しかし、肯定的評価の中にも「誰よりも自分が先に行動できていると思うから。」のように形式的な理由がみられたほか、否定的な回答の理由としては「いつもではない。」「相手の考えが分からない。」などであった。このことから、親切をしてはいるが自分から見た視点で行動しているにとどまっており、相手の立場に立って行動ができていない傾向が伺える。

また、「自分はだれに対しても、分けへだてなく親切にすることができている。」でも肯定的評価は88%にとどまった。否定的な回答の理由として「仲の良い友達には親切にして、そうでない友達には親切にしていない。」や、「嫌なことがあったり、喧嘩をしたりしている時には、親切が出来ない。」などのものであった。このことから、親しい間柄でしか親切な行動ができていないほか自分の都合に左右される様子が伺える。

- 本資料は、2つの場面で構成されている。
1. 結核性股関節炎を患っていた「わたし」は、退院した後、隣の病室にいた同じ病気の子に会う。その子は松葉づえをついていた。それから「わたし」はその相手の子を見かけると身を隠すようになる。
 2. 「わたし」のその様子を見ていた父は、「そんなにかわいそうだと思うなら、かくれてないで、行ってお話さない。」と言う。

2つの行為は、どちらも相手のことを思う気持ちからのものであるが、性質は異なる。この2つの行為を比較させ、本当の思いやりとは何かを考えさせることができる資料である。

指導にあたって、導入では、思いやりという言葉のイメージを出し合うことで資料への方向付

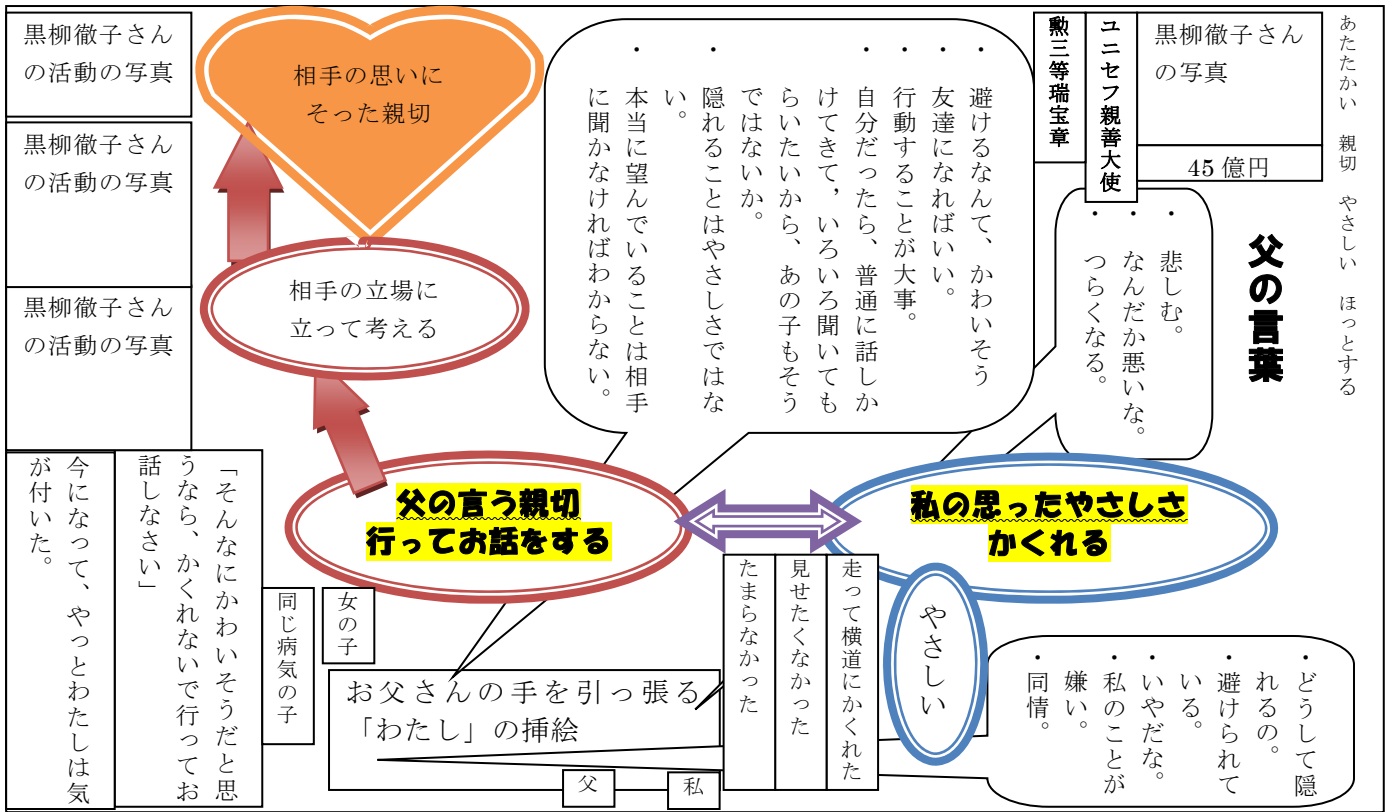
けをしていく。展開前段では、上記1の場面での「わたし」の思いをおさえる。中心発問では、上記2の場面での「わたし」の思いを考えさせる。これらの違いをおさえ、本当の思いやりとは、相手が何を望んでいるのかを親身になって考えることであると気付かせたい。終末では「私たちの道徳」の中の詩を読んで、相手の気持ちに寄り添った親切のよさを温めて終わりたい。

7 準備物 場面絵、ワークシート

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 「思いやり」という言葉のイメージを出し合う。	○「思いやり」という言葉にどんなイメージをもっていますか。 ・あたたかい ・やさしい ・親切	○言葉のイメージを出し合い、資料への方向付けをする。
展 開	2 資料「父の言葉」の前段を聞き、「わたし」の気持ちを考える。	○松葉づえの女の子を見た「わたし」は、どんなことを考えて隠れたのでしょうか。 ・私だけ治ったのを見ると悲しむだろう。 ・なんだか悪いな。 ・今の私を見せると、あの子はつらくなる。	○「わたし」の行った行動の背景にある思いに共感させる。
	3 資料後段を聞き、父の言葉を聞いた時の「わたし」の気持ちを考える。	◎黒柳さんは、今、父の言葉のどんな意味に気付いたのでしょうか。 〈A：同情〉 ・避けるなんて、かわいそう ・一人ぼっちかもしれないから、せめて自分から話をして友達になればいい。 〈B：行動することが大事〉 ・避けてばかりいても何も始まらない。行動することが大事。 〈C：相手の立場に立って〉 ・隠れることは、優しさではない。 ・自分だったら、普通に話しかけてきて、いろいろ聞いてもらいたいから、あの子もそうではないか。 ・力になりたい。本当に望んでいることは相手に聞かなければわからない。 【 価値に迫る発問 】 ●松葉づえの女の子は、隠れた私を見て、どう思ったでしょう。 ・どうして隠れるの。 ・避けられている。いやだな。 ・私のことが嫌いなのかな。 ・同情されているのかな。 ●6歳の時の思いやりと、今の黒柳さんの思いやりでは、どんなところが違いますか。 ・自分の思い込みと、相手の気持ちに沿ったもの。 ・自分の想像と、相手の気持ちを確認したもの。	◎ワークシートに書かせることにより、父の言葉の意味をじっくりと考えさせる。 ○座席表で見取り、意図的指名に生かす。 ○どちらも相手のことを考えた行動ではあるが、隠れる行為は自分本位のものであり、話すことは、どのように対処することが相手のためになるかをよく考えたうえで、相手を大切にしたいものであることに気付かせる。 ○「わたし」の行動と父の考えを比較し、二つの行為の違いを考えさせる。 ★本当の思いやりとは、相手が何を望んでいるのかを親身になって考えて行動することだと気付くことができたか
終 末	4 自分を振り返る。	○今日、新しく気付いたことはどんなことですか。	○ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について自分の考えをまとめさせる。
	5 私たちの道徳を読む。 6 自分の振り返りを交流する。		○相手の立場に立って親切にしていこうとする思いをあたためる。

9 板書計画



10 ワークシート

父の言葉

氏名

黒柳さんは、今、父の言葉のどんな意味に気付いたのでしょう。

父の手を引っ張る「わたし」の挿絵

今日の授業で学んだことを書きましょう。